

ごあいさつ

本日はお忙しい中、平成 28 年度プロジェクト実習活動報告会にお運び戴き、誠にありがとうございます。

3 大学 1 高等学校の連携で、学外の多くの方々にご支援を戴きながら活動し、教室の中だけでは得られない、多くの学びを得ることができました。ご支援を戴きました皆様に、この場を借りて篤く御礼申し上げます。

本日の限られた発表時間内では伝えきれないお話や、ご覧戴きたい資料を揃えて、ポスターセッションの場を設定致しました。

これを機に、より多くの皆様にプロジェクト実習に関心をお持ち戴ければ幸いです。

手狭な会場で恐縮に存じますが、どうぞごゆっくりご参観下さい。

平成 28 年 12 月 10 日

報告者チーム一同

茨城大学就業力育成支援事業 根力育成プログラム

茨城大学では、大学生の就業力育成支援事業(2010～11)、産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業(2013～)の予算支援を受けて、産業界と協働で就業後も役立つ実学的専門教育を含むカリキュラム「**根力(ねぢから) 育成プログラム**」を構築中です。

根力＝茨城大学生版学士力

社会人基礎力をベースに本学独自の要件を加えて「基礎的素養」「社会生活力」「行動力」「思考力」「チームワーキング能力」の5群21項目に整理

根力育成プログラム

根力を育成するための、4年一貫カリキュラム(右図)

根力育成プログラムの特徴

- ① 学生の自発的取り組みを後押し
- ② 全学的教育プログラム
- ③ 産業界との連携授業を重視
- ④ アクティブラーニング、特にPBL授業の重視(右図)
- ⑤ 電子ポートフォリオシステムによる、学生一人一人の学習過程の把握

各期の全学目標		根力(ねぢから)育成プログラム			
第一段階	根力養成プログラム: 学生の自発的学びを後押しし、 社会で活躍するための土台を築く ①フレッシュマンゼミナール: 高校生から大学生へ ②ステップアップ科目群: 自らの方向性を確認して 次の段階へ	個々の分野で直接求められる基礎的スキルを養成し、「資格」としてオンラインライズする準備を整える。	1年	根力養成プログラム ①フレッシュマンゼミナール	電子ポートフォリオにより、学生一人一人の学習過程を、入学と卒業までの更には地理的に分散している部局間でも共有
			2年	②ステップアップ科目群 根力強化プログラム	
3年	根力実践プログラム		スキル養成プログラム (正課外)		
4年					
第二段階	根力強化プログラム: 座学と実地体験を通じて 社会人として要求される能力を 理解・養成する				
第三段階	根力実践プログラム: 実際の活動を通じて、これまで 培ってきた力を確認し、 不足点を自覚して、自らを高めて行く				

授業科目名		プロジェクト実習 A	プロジェクト実習 B	プロジェクト実習 C	プロジェクト実習 D
テーマ		未分化	地域連携 地域貢献	国際交流 異文化理解	PBL型 インターンシップ
段階	対象 学年				
根力強化 プログラム	2・4年	プロジェクト 実習A スタッフ編	プロジェクト 実習B スタッフ編	プロジェクト 実習C スタッフ編	プロジェクト 実習D スタッフ編
		プロジェクト 実習A リーダー編	プロジェクト 実習B リーダー編	プロジェクト 実習C リーダー編	プロジェクト 実習D リーダー編
根力実践 プログラム	4年	プロジェクト 実習A メンター編	プロジェクト 実習B メンター編	プロジェクト 実習C メンター編	プロジェクト 実習D メンター編

カフェ×まちづくりチーム

メンバー: 岩本有彩・栗原将也・跡辺朱理・坂口芹奈
・岩出夏輝・肥後亮志

大学をより地域に根差したものにし、

カフェと地域、大学の連携を強める。

私たちカフェ×まちづくりチームは、茨城大学を、より地域に根差したものにするため、大学をプラットフォームとして、地域のカフェ、地域の方々と結び付けるという目標を立てて今年度から学生発案で発足させたプロジェクトです。常陸太田市特産の里川かぼちゃを使用し、水戸農業高校食品科学科の生徒様たちのご協力のもと作成したスイーツを、カフェを通じて地域の方々に楽しんでいただく活動を中心に展開しております。

1. 県内コーヒーチェーン店との協力

当初は、某県内コーヒーチェーン店様とコラボレーションさせていただき、地域の特産品を使用した商品開発や茨城の伝統工芸品の笠間焼を使用した食器使用などを企画しましたが、9月にはスイーツ試作の段階まで進行しておりましたが、コーヒーチェーン店本社の方より、「自社の商品開発に、外部からの手は入れられないので、一切協力はできない」とのご連絡があり、プロジェクトが振り出しに戻ってしまいました。

2. 里川かぼちゃを使用したスイーツ開発

常陸太田市特産の「里川かぼちゃ」を生産しており、同授業の「さとみ・あいチーム」にご協力いただいている、常陸太田市の里美地区の協力農家様のかぼちゃの収穫祭に本チームのメンバーも参加させていただきました。



そして、水戸農業高校食品科学科の生徒様たちからもご協力をいただけることになりました。生徒様たちは課外活動として里川かぼちゃを加工し、レシピを作り、何日もかけて四種類の「かぼちゃスイーツ」を試作してくださいました。



3. 豊作祭 参加



同授業「さとみ・あいチーム」の企画のもと11月に行われた「豊作祭」に本チームのメンバーも参加させていただきました。頂いたレシピをもとにかぼちゃのスイーツを作成し、茨城大学、常磐大学のプロジェクト実習履修生や地域振興系サークルの学生の皆さんにふるまい、楽しい時間を持ちました。

4. 笠間の家 スイーツ提供

笠間市にある笠間焼ギャラリー「笠間の家」のオーナー様のご厚意で、「笠間の家」内にあるギャラリー併設の小さなカフェにて、水戸農業高校様作成のレシピをベースに、里川かぼちゃのスイーツをアレンジし、笠間焼を使用した食器にて提供していただける運びとなりました。12月1日より提供を開始しております。

まとめ

当プロジェクトは一年目ということもあり、数々の挫折も経験しましたが、豊作祭や笠間の家でのスイーツ提供など、「提携先を変える」という形に迅速にシフトし、活動を継続することに成功しました。その要因は持ち前のチームワークと、地域の方々からの幅広いご支援の賜物であると考えます。社会では、予測もつかないような危機に直面することがままあると思いますが、今回のコーヒーチェーン店様との連携の頓挫は、よい経験になりました。そして、重要なのは、危機に直面した時に素早く頭を切り替え、次の策へと移ることだと学びました。この経験を活かし、次年度以降も、地域に根付いたカフェとの提携など、活動を展開していく予定です。



メンバー:大枝俊貴・助川実咲・岩崎彩・田島彩花
豊田琢登・榊田桃子・箭内淳美・南陽子
山口未来・山口菜穂

常陸太田市里美地区の地域振興を目指し、

里美地区の魅力を発信する、「里美を愛する」学生たち

活動内容

里美茶屋：常磐大学在籍のさとみ・あいメンバー榊田が架け橋となり、常磐大学文化祭「ときわ祭」での出店が実現した。その名も、「里美茶屋」。

里美の^{うまいもの}魅力を販売・PRした。水戸農業高校食品化学科様のお力添えで、「里川カボチャカステラ」・里美ふるさと振興公社様のお力添えで、「里美野菜のポテトサラダ」の販売を行った



豊作祭：里川カボチャの豊作を祝う会を主催した。「参加者を里美ファンにする」を合言葉に、企画を練った。里美地区に関して知ることのできるクイズや、里美フルコースの提供を行った。里川カボチャ研究会・荷見誠会長からのお言葉、常磐大学プロジェクト科目「祭人」様の獅子舞演舞の映像、プロジェクト実習A「カフェ×まちづくり」チームプロデュース・里美フルコースの提供など、重層的な会となった。



わら納豆プロジェクト：近年、高齢化による農業の機械化で、わら納豆の価格が高騰している。里美倶楽部様・教育学部岩佐淳一教授・里美ふるさと振興公社豊田紀雄様のお力をお借りし、「学生が手刈りした地元の藁を藁苞にする、モデルケース」を目指す。現在、絶賛進行中・・・。



○「理念の継承」

「さとみ・あい」は、プロジェクト実習の中でも、最古参のチームのひとつである。活動は、今年で5年目をむかえる。今年度は、活動の最初に、さとみ・あい OG であり、現在、常陸太田市役所勤務の井上紗希様に『さとみ・あいの軌跡』と題した講義を頂いた。活動理念のバトンタッチは、難しく、しかし重要なことであることを学んだ。また、講義の中で、チーム発足当時のメンバーと連携先の熱い思いに触れた。関係先の皆様がどのような気持ちで私達と連携してくださっているのか、それを考えながら活動する必要があることを強く感じた。

○「潮目を創る」

今年度の活動の特徴として、メンバー9人が、それぞれ活躍したことがある。例えば、メディアについて学ぶ者は、「ときわ祭」にて”プロモーションビデオ”を作った。これにより、里川カボチャカステラができるまでのストーリーを可視化できた。料理のできる者は、フルコースの考案、調理を行った。人の心をつかむには、まず胃袋から。里美ファンの獲得に一役買った。また、サークルで舞台に立つ者は、「豊作祭」での司会を見事に成し遂げた。自分たちで、足りない「権威」や獅子舞演舞といった「ワザ」を外部に求め、「豊作祭」はできあがった。多様な人々が集まる「潮目」を創ることが、目的遂行の鍵になるということ学んだ。社会に出ていく、私達学生、特に人文学部が学ぶべきことのひとつは、ここにあるのではないだろうか。

To be continued . . .

ピンク色のかぼちゃ知ってますか。

茨城県立水戸農業高等学校 教諭：新堀俊博

食品化学科：石川 蓮・大倉勝太郎・中丸 彪
横須賀隆・浅野 恵萌・田中 綾香
西島 美紀・吉井 瑞保

里川かぼちゃを活かし、地域活性化に貢献する
私たち水戸農業高校食品科学部は、H26年度より里美地区の活性化するため、特産物である里川かぼちゃを使用したスイーツを「さとみ・あい」チームとともに提案してきました。様々な販売の機会を頂き、多くの方に里川かぼちゃを知って頂くことができました。

1, 水農祭 & 茨苑祭

- H27 かぼちゃのタルト
- H28 かぼちゃのタルトと
かぼちゃのマドレーヌ



2, ときわ祭

- H28 かぼちゃのカステラ

3, 水農祭

- H28 かぼちゃのパイ



4, 各学校祭以外での提供

- H27 水戸まちなかフェスティバル
(スイートパンプキン)

- H27 泉美Cafe
(かぼちゃのジェラード
かぼちゃのクッキー添え)



- H27 活動報告会
(かぼちゃのシュークリーム
かぼちゃのマドレーヌ)



5, スイーツコンテスト 優秀賞！！

平成27年度12月に行われた「第1回学校産・地場産食材を使ったスイーツコンテスト」でかぼちゃのモンブランを制作出品し、優秀賞を頂くことができました。また、この機会でも私たちは常陸太田市里美地区をPRすることができたと考えております。

6, 第68回茨城県学校農業クラブ連盟大会

プロジェクト発表 Ⅲ類 優秀賞

- 1年次…里川かぼちゃの栽培環境を含め、
里川かぼちゃの特徴を調査する。
- 2年次…1年生の時に得た里川かぼちゃの特徴を生かした
スイーツを提案する。
- 3年次…提案したスイーツについて調査・改善をし、
提供の機会を増やす。

このような流れでプレゼンテーションを行いました。
結果は、優秀賞を頂くことができました。

まとめ

私たちは、里川カボチャを使ったスイーツを数多く提案し、たくさんの方々に里美地区でつくられた里川カボチャを知って頂くことができたのではないかと感じています。

また、このような機会を頂き、食品加工の知識・技術の向上と地域食材の再発見、さらには地域への興味関心を高めることができた実感しています。

今後も、ここで学んだことを後輩たちへ伝えていきます。

私たちは 留学生と高校生が国際交流の輪を 広げるためのサポートをしています

～異文化交流プロジェクト～



7月18日（月・祝）茨城キリスト教大学にて、～異文化交流プロジェクト～を行いました。茨城県内の高校生を集め、様々な活動を通して交流を深めました。

高校生・留学生共に、お互い積極的に活動に参加する姿が印象的でした。

～参加してくれた留学生～

今回のイベントにはICとIUから10名の留学生に参加していただきました。アメリカ、インドネシア、韓国、中国、ベトナムそれぞれの国の魅力や特徴、高校生からの疑問に丁寧に分かりやすく答えていました。

また、このイベントのメイン企画であるダンスでは、IC留学生に振付をしてもらいました。



～フリートークの様子～

5つの国（アメリカ、インドネシア、韓国、中国、ベトナム）に分かれてそれぞれ自国の留学生が高校生の質問や生活、流行などをノートに書いたりして、ジェスチャーをし、高校生と楽しくトークをしました。

～ダンスの様子～

留学生が創作したダンスを参加者全員で踊りました。曲は倅田來未さんの“It's a small world”を使用しました。どのチームも時間一杯使って留学生からダンスを教わっていました。最後には全体でチームごとのダンスをつなげ、ビデオ撮影を行いました。確実に留学生と高校生が一つになれた瞬間でした。



<参加者の声>

- 異なる文化を持った人に触れるだけでも楽しかったです。そして、英語を日常会話レベルで話せるだけでもっと楽しめるのではないかと思います。また、英語を極めたいと思いました。
- 様々な国の方々とお話しすることができて良い経験になりました。
- 国は違っても言葉が違うだけだなと感じた。私も英語をもっと頑張る。とても楽しい企画ありがとうございました。



まとめ

異文化に関心を持っている高校生と留学生が、一緒になって楽しめ、距離を縮めることができるような異文化交流プロジェクトを目指し、準備を進めました。性別や年齢はもちろん、国籍も違う参加者が多く集まるプロジェクトだったので、当日のレクリエーション内容やその進め方に注意をし、工夫しながら決めました。当日は不安な部分もありましたが、プロジェクト終了後に高校生と留学生の両者から楽しかったとの声も頂くことができました。異文化交流プロジェクトを通して、企画運営をした私たちも異文化交流の難しさや楽しさを感じることができ、とても有意義な経験ができました。

今後の活動

12月～1月にかけて小学校への訪問授業を予定しています。茨城県内の小学校を対象に、異文化への理解を深めることを目的とした内容の授業を行います。まだ異文化に興味のない小学生でも楽しめるように写真を使用したり、クイズを実施したりするなど、楽しい授業を計画しています。この授業をきっかけに、小学生の異文化に対する興味や理解が少しでも深まればと考えています。

Domaine MITOチーム

メンバー：鈴木勇希・佐野智弘・高山直人
長澤賢司・飯塚子都香・三角祐斗
石橋翔太郎

ワイン造りを通して、水戸まちなかの活性化

私たち Domaine MITO チームは上記の目的を達成するために、昨年度立ち上がったベンチャー企業の Domaine MITO 株式会社様とタッグを組みました。そして、水戸のまちなかでのワイン造りを通し、水戸のまちなかに人を呼び込む活動を行いました。

1. ワイン醸造体験

学生が実際にワインの醸造体験をさせて頂き、改めて「まちなかワイン」の魅力を認識することが出来ました。また、実際に体験することによって、あやふやであったイメージを固めることが出来ました。



2. ランドネきたかんマルシェ

9月18日～20日にかけて、新宿駅西口のイベントコーナーにてワインの販売をお手伝いしました。その後、お客さんの分析を行い、より販売数を増やすにはどうすればいいのかについての会議が行われました。

3. 水戸まちなかフェスティバル

9月25日の水戸まちなかフェスティバルにおいて、泉町二丁目商店街振興組合様のブースにて、Domaine MITO 株式会社様のワイン販売をお手伝いしました。また、Domaine MITO 株式会社様が主催したブドウ園への収穫ツアーに添乗員として参加しました。



4. 水戸ワインリリースパーティー

11月3日に開かれたワインのリリースパーティーに参加しました。その時に様々な方から Domaine MITO 産ワインの感想を頂き、チームで行っている活動にフィードバックすることが出来ました。



まとめ

「まちなか」で「ワインの醸造」といった、思いもつかない単語の結びつきに、水戸のまちなかを活性化させる可能性を感じました。今年初めて成立したチームと、起業したてのベンチャー企業とのタッグだった為、初めてのことが多く戸惑うこともありましたが、そういった状況でも冷静に行動し、「今、求められている行動は何か」ということを常に考えることが社会では求められているのだと学びました。しかしながら、企画・提案を行う際には、経験不足な面があり、せっかくの「まちなか」での「ワインの醸造」というプロジェクトの長所を最大限に生かし切れていなかったことが課題です。今年度、うまくいかなかった部分の原因を分析し、来年度以降の活動や、新規のプロジェクトに生かしていけるよう努力して参ります。

コミュニケーショントラブルをなくそう

森本真由・佐藤宇輝・入江美穂
森遥香・波崎大知、猪狩彩夏、磯貝麻菜

茨城大学の1～3年生に向け、社会でコミュニケーションをとる上でのメールマナーの周知

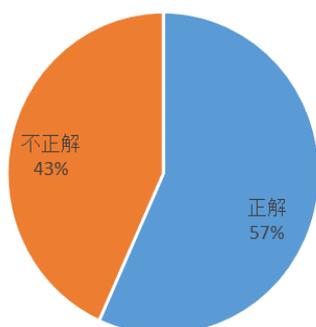
大学生は課題を提出する、研究室訪問をするなどメールを使用する機会が増えます。私たちコミュニケーションチームはそんな大学生のために、活動をしています。上記の目的を達成するために活動してきたことを紹介します。

1. アンケート、クイズ結果

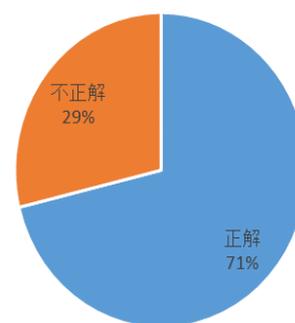
メール利用に関する大学生の意識調査を茨大生男女304人対象に行いました。

Q5. 「正しい敬語に変えよ」というクイズをだしました。不安がある人より不安がない人のほうが正答率が低いという興味深い結果が出ました。

Q5.不安ない



Q5.不安ある



2. インターンシップ

このプロジェクトを提供して下さったNTTコミュニケーションズ株式会社の本社にインターンシップに行かせていただきました。通信業界などのお話をさせていただきました。二日間、貴重な体験をすることができました。

結果3.リーフレット

リーフレットは**3000**部作成！
来年度の一年生にも配れるように
しました。
QRコードをつけることによってす
ぐにサイトへ到達できるようにし
ました。



結果4.Webによるメールマナーの周知

大学生がメールを使う状況を考え
てテンプレートを作成。
「Webを見た人がすぐ使える」がコ
ンセプト！
2016/11/28 現在、トータルアクセ
ス数は**818**になりました。



事実その1 次大生304人に聞いた、メールマナークイズ！

クイズ5問の正解率

自信がある人の正解率が毎問平均	知らず知らずのうちに失礼なメールを送っているかも...
80%	20%

事実その2 同じ304人にアンケートを取りました！！

メールの不安はありますか？

不安	20%
不安はない	80%

不安な要素ランキング

1. 敬語構成
2. 文法
3. 決まり文句

8割の学生が不安を持っている！自信がある2割の学生も間違っている可能性がある！

外国の先生に英語でメールを送らなさをやけど...英語で...?

言段メールなんて送らないし、どう書き出せば失礼じゃないの...?

~大学生のメールの不安あるある~

国にメールを送りますか？

国にメールを送ります	20%
国にメールを送りません	80%

学生が先生に送ると思われるメールの内容・欠席/遅刻の連絡・課題提出など

やはり欠席連絡など、大学生らしい用件が多いのがわかります。でもネットで例文を調べていても**ビジネスメールの例文**ばかりではありませんか？

ネットを見ても、ビジネスメールの例文ばかりで大学生用がない...何を参考にすればいいの...?

大学生のためのサイト用意しました！これを見れば表紙の間違いもわかります！

まとめ

「コミュニケーショントラブル」とはなんだろうという疑問から始まり、ゼロから何かを作り上げていく難しさを、身をもって学びました。企業の方とメールでやり取りを交わすことで私たち自身のメールマナーの向上につながりました。また、打ち合わせやインターンシップを通して主張を通すためのノウハウや話し合いの進め方、物事に対する考え方など社会人になってからも役に立つスキルを学ぶことができました。まだまだ、メールマナーについて不安を持っている茨大生はたくさんいると思います。引き続き、作成したリーフレットやWebを利用して大学生にメールマナーの周知ができればと思います。

こみっとフェスティバル

メンバー：佐藤李咲・塚本莉沙・小野瀬莉央
鈴木千尋・井上知美・山口紗奈子

活動概要

私たちこみっとフェスティバルチームは、2017年2月25日に行われる「こみっとフェスティバル2017」の成功を目指して、水戸市役所・水戸市で活動されている市民活動団体の方々と協力して活動しています。

1. ボランティア活動

○概要

本活動で市民活動団体の方と関わるにあたりまずは私たちがその現状を知るため、活動に参加させていただきました。

- ・ 7月31日 第3回小中学生英語スピーチ大会
(茨城県世界青少年コミュニケーションクラブ)
- ・ 8月21日 歴史館まつり(水戸こどもの劇場)
- ・ 8月25日 老人ホームの訪問(はつらつサークル)
- ・ 9月3日 子ども食堂(にこにこ食堂)
(茨城保険生活協同組合)



○結果

市民活動団体の活動に参加することで理解を深め、様々な活動があることを知ることができました。またボランティア活動の現場を肌で感じることで、親子の交流の場となる・生活をより豊かにする等その役割を知ることができました。

2. こみっとフェスティバルの周知

○水戸まちなかフェスティバル

日時：9月25日(日)10:00～16:00

内容：自然の物を用いた工作体験コーナー
/物販/チラシ配布



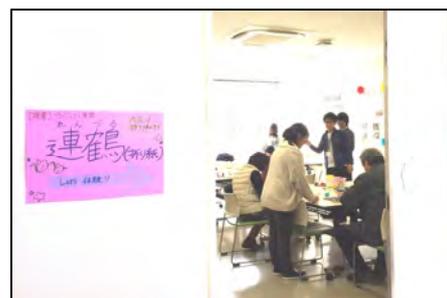
○茨苑祭

日時：11月12日(土) 13日(日)9:30～15:30

1日目：連鶴体験（はつらつサークル様協力）

2日目：カプラ（水戸こどもの劇場様協力）

☆フリーペーパーの配布



○結果

どちらも多くの方々に参加していただきこみっとフェスティバルの周知を進めることが出来ました。また市民活動団体・来場者・プロジェクト実習他チームらと交流する機会ともなり、有意義な活動となりました。

まとめ

こみっとフェスティバルチームは結成して今年度で3年目となります。継続して取り組んできたことにより計画・日程調整等のノウハウを培い活動に活かすことができました。また、昨年の活動を冷静に分析し、どうすれば良かったのかをチームで徹底的に話し合っ今年度につなげることができました。しかしその一方で新しいことに挑戦する一歩がなかなか踏み出せなかったことが課題として挙げられます。最後に、2017年2月25日(土) 内原イオンにてこみっとフェスティバルが開催されます。水戸市の市民活動団体について知ることのできるチャンスです。是非お越しく下さい。